

取組：教員の英語指導力・英語力の向上(CAN-DOリストを活用した指導と評価の一体化)

当該地域の特性等を踏まえた課題分析の視点

- ・ CAN-DOリストの公表が十分にされていない。(小・中)
- ・ 学習指導要領の趣旨が十分に周知できていない。(小・中)
- ・ CAN-DOリストが十分に活用されていない。(高)
- ・ パフォーマンステストが十分に実施できていない。(高)

Plan

■取組計画

- ・ CAN-DOリストの活用促進【県様式の作成と活用】
- ・ 教育課程研究協議会・新教育課程説明会での活用の周知
- ・ 英語教員研修の実施 (TOEIC IPの受験)

■体制

- ・ 研修協力校等の指定 (小学校3校・中学校2校・高校3校)
- ・ 英語教育推進リーダー等の研修等での活用

Do

■小中連携推進事業

- ・ 研修協力校が岡山県の様式を使ってCAN-DOリストを作成し、公開授業等で小中が連携して活用する事例を示すことで、県内小中学校のCAN-DOリストの効果的な活用を促す。
- ・ 中学校CAN-DOリストの中に小学校の学びとの関連を示す欄を設けることで、担当教師が学びの系統性を意識して授業計画を立てられるようにする。

■英語教員研修

- ・ (小・中) 英語教員の英語力・指導力向上を目的として、「小学校英語専科研修会」「中学校英語指導力向上研修」「小学校・中学校英語教員パワーアップ研修」を実施する。
- ・ (高) 研修協力校等において公開授業を実施し、CAN-DOリストの活用や、4技能を統合した指導・評価等について研究協議を行う。
- ・ (小・中・高) 担当教師が単元末や学期末に適切なパフォーマンステストを設定し、学習到達目標を踏まえた見通しをもった単元計画及び言語活動を計画することで、指導と評価が一体化した授業改善を図る。

Check

■CAN-DOリストの活用 (公表)

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
中	27.4%	36.5%	28.2%	—	73.3%
高	13.3%	14.3%	20.2%	—	27.3%

■教員の英語力の向上 (CEFR B2以上)

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
中	30.4%	36.5%	44.3%	—	44.2%
高	76.9%	86.0%	85.1%	—	85.1%

Action

- ・ 研修協力校における研究・好事例を引き続き公開授業・研修等で周知するとともに、大学教授等の講演等により、教員が「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する理解を深められるようにする。
- ・ 小中のCAN-DOリストを活用し、学習内容の系統性を高めるとともに、言語活動によるパフォーマンス評価を行う際の評価規準を設定する視点や評価方法について、小中で共通理解を図る必要があることを確認し、連携を強化する。
- ・ 言語活動を通して、良質なインプットやフィードバックを児童生徒に与えるため、小・中学校英語担当教員の英語力及び指導力向上を目的とした外部専門機関と連携した研修を行う。
- ・ 高等学校新学習指導要領に沿って新たに作成したCAN-DOリストの活用(公表・把握)を進める。

課題

- 小中連携の体制が整備されておらず、小学校での学習内容や指導方法等について情報共有が十分でないまま中学1年の学習がスタートしている。
- 対話の流れに合った英文を書いたり、自分自身のことについてまとまりのある英文で書いたりするなど、目的・場面・状況に応じた表現をすることができない。

具体的な取組と工夫

研究テーマ CAN-DOリストを活用した『目標・指導・評価』の一体化

■『目標・指導・評価』

- 児童生徒が本単元で学ぶ言語材料や活動に必要な表現を明確に把握することができるように、単元の目標や評価規準を単元の最初の授業で示す。
- 児童生徒が自己の学習を自覚的に捉え、単元を通して身に付けるべき資質・能力を明確に把握することができるように、小・中学校とともに単元を通した振り返りシートを活用する。

■単元末の活動前のプレ活動

単元末の活動の前に疑似活動を授業に取り入れることで、生徒自身がどのようなことに気を付ければいいのか、どのようなパフォーマンステストをするのかを明確に示す。

■『思考・判断・表現』を意識した場面設定

言語活動の際に、実生活に近い、より具体的な目的・場面・状況を設定をすることで、相手に何を伝えたらよいか、相手が何を求めているかを考えやすくする。

成果

- CAN-DOリストを活用し、単元や学期末の目標を最初に示したことで、児童生徒が見通しをもって活動・学習することができていた。
- CAN-DOリストを活用することで、教師側が何を教え、児童生徒が何ができるようになればよいのかが明確になり、授業計画を立てやすくなった。
- 小学校のCAN-DOリストを中学校で活用することで、生徒がすでにできることを中学校教師が把握することができた。
- 1単元・1時間を同じ流れの中で小学校中学校ともに授業をすることで、児童生徒が見通しのある授業を受けることができた。
- 小中連携をすることで、中学校教師が小学校の教科書を意識するようになり、小学校でどのような内容をどのような方法で学んでいるのかを知ることができた。
- 児童生徒の思考力・判断力・表現力の活性化に向け、教科書にある言語活動の場面設定をより詳細に行う重要性を再認識した。

課題及び改善案

- A L Tの小中兼務の状況や英語専科教員の配置の有無により、中学校区内の小中学校での指導に差異が生じるため、作成した小中CAN-DOリストを担当者が十分理解し、中学校区として目標を確実に共有する。
- 小学校段階からの英語学習により中学校入学時では生徒の「話すこと・聞くこと」の能力は高いが、「書くこと」に苦手意識を持っている生徒が多いため、中学校では書く指導を積極的に行っていく。

課題

令和5年度の義務教育学校開校に向けて、小・中学校の指導内容の系統性を踏まえた英語学習カリキュラムを作成する必要があり、目標・指導・評価が一体化したCAN-DOリストの作成と活用が求められている。

具体的な取組と工夫

■ 保小中が連携した英語学習カリキュラムの開発 (Enjoy English)

- カリキュラム作成委員会(英語教育担当者会)において、保小中の英語学習カリキュラム冊子「Enjoy English」の作成を進め、県内大学の教授をアドバイザーとして招聘する機会を設けている。また、「総合的な学習の時間」における郷土学習を柱とし、地域資源発信型の単元計画を立てている。
- 小学校全学年において、4月と2月に英語による英語集会を実施し、積極的に英語でコミュニケーションを図る機運を高めている。
- 英語検定Jr(小学校)及び英語検定3級(中学校)の受検料の助成と受検機会を提供することで、児童生徒の2技能及び4技能別の力を把握し、実態に応じた授業改善に取り組んでいる。

■ 目標・指導・評価が一体化したCAN-DOリストの作成と活用

- 小学校3年生から中学校3年生まで、同じ様式でCAN-DOリストを作成し、小学校での学習との関連を記載した。
- 小学校5年生から中学校3年生まで、学期末にパフォーマンステストを実施している。(学期1回)
- ALTによるインタビューテスト等を通して、パフォーマンス評価を中心に、「目標・指導・評価の一体化」した学習評価を行っている。

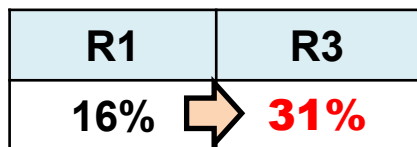
■ 学習指導のスタンダード「旭スタイル」の実施

- 岡山型学習指導のスタンダードに基づく、旭小中英語版「旭スタイル」を小学校・中学校全学年で実施している。
- 小中連携した授業改善の視点で小中が互いに授業を公開・参観し、学習指導における共通理解を図っている。

成果①

■ 生徒の英語力の向上

● 英語教育実施状況調査の結果



旭中学校3年生におけるCEFR A1相当以上の資格を有する生徒の割合

成果②

■ 小中一貫年間指導計画に基づいた「CAN-DOリスト」

学年	指導内容	指導内容	指導内容	指導内容	指導内容
小学3年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
小学4年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
小学5年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
小学6年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
中学1年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
中学2年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習
中学3年	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習	英語の発音・聴き取りの練習

課題及び改善案

【課題】

「指導と評価の一体化」のための学習評価CAN-DOリストを活用し、学習内容の系統性を高めるとともに、言語活動によるパフォーマンス評価を行う際の評価規準を設定する視点や評価方法について、小中で共通理解を図る。

【改善案】

パフォーマンス評価を行うための規準を示したルーブリックを作成する。

課題

CEFR-Jディスクリプタを活用して実施した「実際の英語使用に対する自信の度合い」に関するアンケートで、A2レベルにおいて「話すこと」「書くこと」に苦手意識を持っている生徒が顕著に見られた。授業内での教師・生徒双方の英語使用にも偏りがある。

具体的な取組と工夫

取組①発信力を強化する4技能統合的な授業の研究



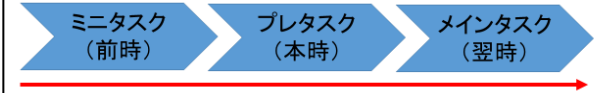
工夫 ・「やりとり」を中心にした言語活動のある授業づくりを行った。
 ・公開授業において、大学の外部講師を招聘し、助言を受けた。（新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、外部への公開は中止）

取組②CAN-DO リスト作成による学習到達目標と指導方法の共有

工夫 ・本校の実情に合わせたリストを作成するためにアンケートを実施し、生徒の英語力を分析した。
 ・中学校学習指導要領を踏まえて、高等学校学習指導要領との整合性を図りながら、リストの作成作業を行った。
 ・リストを作成するための基本方針やその意義についての教員研修を企画し、教員の理解を深めた。

研究授業テーマ「課題解決型の言語活動の設定」
 ～言語使用が必要な場面設定を視点として～

課題解決型のスピーキング活動



ミニタスク: 日本人旅行者とブータン市民とのやり取り (Interaction)
 プレタスク: 日本人旅行者とブータン市民とのやり取り (Mediation)
 メインタスク: 自分の幸福観について発表 (Speech)

成果①

【授業者感想】

・「やりとり」の活動に必要な内容理解・リテリングなどに目的意識を持って取り組み、生徒が活動に意欲的に参加するようになった。
 ・ペア活動を通して生徒が協働的に学び、英語が苦手な生徒の「話すこと」への抵抗感が和らいだ。

【生徒の感想】 Reflection Sheetの記述から
 ・ペアと協力して会話を続けることができた。
 ・英語での「やり取り」を楽しむことができ、相手に伝わると嬉しかった。

成果②

【教師】

・生徒に目指すべき到達目標を示すことで、適切な言語活動を授業で設定できるようになった。

【生徒】

・現実的な到達目標により、言語活動の難易度を理解したり、自らの学習計画を立てることができた。

課題及び改善案

○課題
 ◇改善策

- 言語活動のある授業では、生徒が話す場面が増え、それに伴って英語で伝えたいという意欲が高まるとともに、自らの語彙力や文法力の不足を実感している。◇必要な語彙・表現の自動化トレーニングを家庭学習の中に位置づけ、授業とつなげていく。◇パフォーマンステストを計画的に実施する。◇生徒に何が身に付いたかを適切に見取り、言語活動を見直す。
- 言語活動を単元の柱とする授業とCAN-DOリストをどのように整合させていくか。◇CAN-DOリストの評価と観点別評価の関係を研究しながら、リストの妥当性を測り、改善していく。

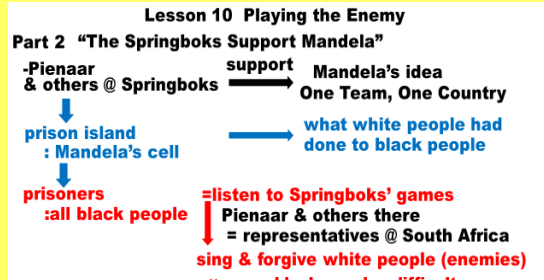
指導上の課題

指導目標・指導方法に統一性がない ⇒ **Retelling (Speaking & Writing) 活動・4技能5領域を高める授業へ**

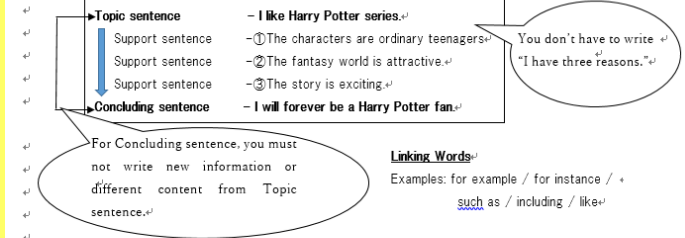
具体的な取組と工夫

- **定例外国語科会議** } 月曜日3時間目に毎週会議を実施
- **6回の公開授業** } 指導目標・指導方法の共有、研修会
- **Can-Do-List の点検** } 生徒に身に付けさせたい力の確認

- ・公開授業と研修会は全員参加
校内・校外へ広く案内
- ・公開授業は各年次で最低1回実施
様々な授業で多くの担当者が実施
- ・Can-Do-Listを全生徒に配布
身に付ける英語力の確認と評価
(資格試験とのリンク)



Write a paragraph with linking words (Unit 26)



● Write a paragraph about your dream job.

1. Write a topic sentence for your paragraph. (What kind of job do you want to do?)
2. Write three support sentences. (Write your dream job in detail.)
3. Write a concluding sentence.
4. Write a paragraph in about 80 words using the linking words (expressions for examples).

成果

■ JOTO STYLE : Retelling (Speaking & Writing) 活動の確立

指導スタイルは個人の個性に任せ、指導目標と指導方法は同じ。英語のメモを活用して、話し、書き、必ず英語でRetellingする。

■ 教材(プリント類)の共有

■ 生徒の声

Retelling を意識して予習をする。友人の添削を視野に英語を沢山書く。英語のメモを活用して書く、話す。

ELEMENT English Communication F.
Read ten times and check the number. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

Lesson 10 Playing the Enemy - The game that changed a nation

Part 2 本文
Questions for Your Note-taking

1. What is the title of Part 2?
2. Who supported Mandela's idea? What was Mandela's slogan?
3. How did the team members come to understand Mandela's feelings?
4. What did they realize? And how did they realize it?
5. When the Springboks players had a conversation with the prisoners there, what happened? And why did they do so?

Grammar & Idioms (Please put the following sentences into Japanese.)

1. 進行形の受動態 be being done This island was still being used as a prison.
2. 分詞構文 Seeing that tiny room, they truly realized what ~.

Heating this, the players told them they were now representing the whole country. ~.

課題及び改善案

- 外国語科会議 ⇒ 年次会議・年次代表者会議
- 公開授業 ⇒ 相互授業参観・授業者の決定
- 新学習指導要領に合わせた指導案の作成

